

浜の活力再生プラン
(第2期)

1 地域水産業再生委員会 (浜プランID: 1113002)

| | |
|------|----------------------------|
| 組織名 | 富山市地区地域水産業再生委員会 |
| 代表者名 | 道井 秀樹 (とやま市漁業協同組合 代表理事組合長) |

| | |
|-----------|-------------------|
| 再生委員会の構成員 | とやま市漁業協同組合、富山県富山市 |
| オブザーバー | 富山県、富山県漁業協同組合連合会 |

※再生委員会の規約及び推進体制の分かる資料を添付すること

| | |
|-----------------------|---|
| 対象となる地域の範囲及び 漁業の種類 | <p>範囲：とやま市漁業協同組合管内</p> <p>主な漁業の種類：定置網 (125名)、 小型底曳き (50名)、刺網等 (20名)、採貝 (10名) 一本釣り (5名)、かにかご (3名)</p> <p>対象となる漁業者数；213名 ※重複あり (実数183名)</p> |
|-----------------------|---|

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

| |
|---|
| <p>富山市の水産業は、ホタルイカ、シロエビ等の魚種を中心に漁業生産が展開されている。</p> <p>富山市では、「富山県水産業振興計画 (平成31年3月策定)」及び「第2次富山市総合計画 (平成29年3月制定)」に基づき、海浜地域資源の活用による集客力ある漁村地域づくりの推進、施設機械装備の充実による持続可能な漁業経営の推進に取り組んでいる。</p> <p>富山市地区は、四方・岩瀬・水橋の3つの地先を拠点に漁業生産が展開されている。しかし、近年の魚離れ等により魚価が低迷している魚種も多い。今後は、昨今のインバウンドを契機とした海外輸出への対応も視野に入れつつ、産地市場のさらなる機能統合が必要であり、このプラン2期は重要な期間となる。</p> <p>一方で、主要魚種であるホタルイカとシロエビについては、漁業関係者による差別化等の努力が着実に魚価に反映されてきている。そのため、今後は需給状況に起因する価格変動の影響を緩和するための方策 (品質を損なわない冷凍保管による出荷調整等) が次の課題として浮上してきている。また、第2期プランの期間において、フクラギ、アジ、サバのような他産地との差別化が難しい一般的な魚種についても、荷揚げ後の鮮度の保持や出荷調整の実施等により、魚価の向上が必要である。</p> |
|---|

(2) その他の関連する現状等

北陸新幹線（平成27年3月に東京～長野～金沢が開通）の開通により、東京駅から富山駅まで乗り換えなく約2時間で結ばれたことから、富山と首都圏との移動の利便性が格段に向上し、交流人口の拡大や地域経済の活性化につながってきている。その実態を踏まえ、漁業者所得の向上をもたらすものとして、観光漁業（体験漁業）といった漁業自体の有する潜在的価値の発現・利用を、漁業閑散期の有効活用策として早急に取り組むことが重要である。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

① 水産資源の管理

・育てる漁業による水産資源の持続的利用

→ 資源管理型漁業・栽培漁業の推進

【資源管理型漁業の推進】

漁協並びに漁業者は、乱獲を防ぎ、一定基準以下のサイズの魚は再放流するなど、資源管理型漁業を推進する。

また、シロエビ、ホタルイカなどの商品価値が高い魚種を集中的に捕獲すると資源の枯渇を招くため、漁協並びに漁業者は、適正な漁獲による持続的な資源管理を実施する。

【栽培漁業の推進】

現在富山市地区では、計画的にクロダイ及びヒラメの種苗放流を実施し、育てる漁業による資源の持続的活用を図っている。漁協は、これらの魚種の種苗放流について漁業者や県水産研究所の意見を聞きながら、現地での放流方法を改善し、回収率を向上させることによる漁獲量増加を目指す。

また、漁協並びに漁業者は、県水産研究所が取り組んでいる新たな魚種（キジハタ、アカ

ムツ等)の種苗放流用の稚魚の生産に協力し、新たな高級魚の資源増大に向けた取り組みを支援する。

② 良質な水産物の安定供給と販路拡大

・良質な水産物の安定供給

→ 安全・安心な水産物の安定供給に向けた環境整備

【漁港における高度な品質・衛生管理対策の推進】

消費者の食品に対する安全・安心を求める要望は、近年特に高まっている。このことから、漁協は、鮮度保持などの高度な品質・衛生管理の導入等の対策を推進する。

【水産物安定供給の推進】

現在、市内には四方、岩瀬にそれぞれ産地市場が開設され、個別に取引が行われている。こうした状況は、富山市産の高規格魚の分散を招きやすく、市民への安定供給や、まとまったロット数の確保を困難にする一因となっている。そこで、漁協は、四方市場と岩瀬市場に分散した漁獲物を市場統合により岩瀬市場に集約することで、2つの市場の漁獲物を1か所に集荷し、数が揃いにくい高規格魚（高級魚や大型で高品質な魚）を安定供給できる体制を整える。

また、漁協は、産地市場の機能を岩瀬市場に集荷することで、経営の効率化と安定化を図る。加えて、市場統合時には、EU等への輸出を見据えた構造とし、水産物の販路拡大に対応できるようにする。

・富山市ブランドづくりによる競争力のある水産物の展開

→ 水産物の高規格差別化とそのPR

【新たな水産物ブランド化の高規格化推進】

水産物をブランド化し、高価格を維持するための条件としては、高品質なものを安定的に供給できる体制を整えることが重要である。このことから、漁協は、差別化が進みつつある富山県ブランドとして全国に名高いシロエビやホタルイカに対して、漁期や魚価に応じた出荷調整を行うための急速冷凍機及び冷凍・冷蔵施設等の導入を行うことで、より高品質で安定的な供給体制を整備する。

また、漁協は、岩瀬市場に水産物を集荷することで、四方市場に水揚げされていたホタルイカや青魚についても、令和元年度から導入している電子入札システムによる取り扱いを可能にする。電子入札システムにおけるリモート入札の機能を活用することにより、仲買人がどこからでも端末で入札が可能となることで、セリの競争力が強化され、魚価の向上が図られる。

さらに、漁協は、ブリやフクラギ、サバ、マアジ等の多獲性魚類について、プラン第1期に作成した脱血、神経締め、首折り等を活用した品質向上マニュアルを充実させ、漁業者に

広く普及する。

漁業者は、クロダイについて漁船の船槽や市場の活魚槽等を有効活用することで、活魚の取り扱い量を増やし、魚価の向上に繋げる。

市場統合や鮮度管理により、市場に同一で高品質な漁獲物が集約されることで、高規格魚の安定供給による魚価の向上を目指す。市況による価格変動を緩和する方策を検討しつつ、新たな魚種のブランド化を推進する。

・魚食普及と差別化による市民意識の啓発

→ 食育・地産地消の推進

【水産物PRの推進】

漁協並びに漁業者は、「とやま市産の魚」を富山市内外に広くPRするため、富山市内で水揚げされる水産物等を積極的に情報発信し、販売促進に繋げる。

・水産業の果たす多面的機能と市民意識の啓発

→ 森・川・海をつなぐ環境保全活動の展開

【漁業者による「出前講座」の推進】

若手の漁業者が小学校において「出前講座」を実施しているが、講義を行う漁業者にとっても改めて学ぶ機会となっており、よい効果を生み出している。

このことから、富山市職員とともに「出前講座」を展開し、小学校以外にも対象を広げながら魚食普及や水産業の多面的機能の普及啓発に努める。

③ 快適で活力あふれる漁村地域づくり

・快適でにぎわいのある漁村地域づくり

→ イベントの開催や直売所・食堂等の設置

漁協並びに漁業者は、祭りの開催や直売所及び食堂等の設置を実施し、それぞれで地元水産物を積極的に使用することで、沿岸地域外からの集客を促進し、さらなる賑わいの創出による漁村地域の活性化に努める。

・集客力のある漁村地域づくり

→ 海洋レクリエーション拠点の活用

全国的にも数少ない釣り防波堤がある水橋フィッシャリーナ等の海洋レクリエーション拠点等があることから、富山市は、集客力のある漁村地域づくりを推進する。また、北陸新幹線開業による交流人口の拡大を契機とし、観光資源としての漁業の有効活用の方策を検討する。

④ 担い手の育成・確保と経営基盤の強化

・持続可能な漁業経営の展開

→ 多様な担い手の確保

漁協並びに漁業者は、富山県地域漁業担い手確保・育成協議会に参画して、中堅漁業者の育成のために新規就業者を対象とした経営管理の知識や熟練漁業者の技術等を習得する機会の創出や、漁業就業相談会及び就業準備講習会等を実施し、漁業就業者の確保・定着を促進する活動に取り組む。

⑤ 漁業コスト削減への取り組み

・船底清掃実施の徹底

漁業者一人ひとりが年1回以上の清掃実施を徹底するとともに省力な航行に努め、経費削減を図る。

・経営体の経営基盤の強化

→ 経営合理化のための施設・機械装備の充実

【漁船及び装備機器の近代化の推進】

漁協並びに漁業者は、漁船及び装備機器（漁船新造、魚探、GPS、潮流計等）の高度化を計画的に実施し、作業の高速化・省力化を図る。漁協及び漁業者は、併せて、漁船及び装備機器のメンテナンスを定期的に行い、漁船及び装備機器の長寿命化及び燃費の改善等を行う。

⑥ 漁港の機能充実

・漁港施設や海岸保全施設の機能保持

→ 利便性の高い漁港環境の維持

利便性の高い漁港環境の維持を図るため、富山市は、漁港施設等の計画的な維持管理及び近代化に努める。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

ホタルイカ漁の漁期規制

シロエビ漁の漁期規制

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和2年度） 漁業所得2.1%向上

| | |
|--------------|---|
| 漁業収入向上のための取組 | ① 水産資源の管理 1) 資源管理型漁業の取組を推進するため、漁協は全ての漁業者に統一した魚体測定の基準を周知し、定置網に入ったヒラメ等で一定基準以下の魚 |
|--------------|---|

の再放流をプラン第1期に引き続き実践する。

また、栽培漁業の取組を推進するため、漁協は、計画的に種苗放流を実施する。加えて、富山県農林水産総合技術センター水産研究所が取り組んでいる新たな魚種（キジハタ、アカムツ等）の種苗生産に協力する。

- 2) 漁協は、種苗放流の方法について、漁業者に意見を聞き、種苗にとって、これまでより良い条件となりえる方法を検討する。

また、富山市は、種苗の中間育成を行っている四方漁港泊地の浚渫を行い、種苗が成長しやすい環境を整える。

② 良質な水産物の安定供給と販路拡大

- 1) 漁協は、産地市場の統合に係る施設整備等について、実施設計の検討を行う。

また、漁協は、施設整備の時期が、荷さばき所の繁忙期と重ならないよう施設整備のスケジュールを検討する。

漁協は、ホタルイカやシロエビなど鮮度落ちが早い魚種に対し、魚価に応じた出荷調整を行うための急速冷凍機及び冷凍・冷蔵施設等の導入検討を行う。

また、漁協は、昨年度に導入した電子入札システムを通年で使用し、入札対象魚種の流通の効率化を図ることで魚の鮮度劣化を最小限とし、付加価値の向上に努める。

漁協は、漁業者や仲買人に聞き取りを行い、プラン第1期に作成した品質向上マニュアルをより良くするための方策について検証する。併せて、定置漁業者及び一本釣り漁業者は、漁協とともに、フクラギ（ブリ当歳魚）、アジ、サバ、ブリの活き締め（脱血、神経締め）を試行し、漁協と意見交換を行うことで、より実践的なマニュアルへの昇華に協力する。

- 2) 漁協並びに漁業者は、イベントの開催、HP・SNSの活用、新聞・テレビ等のマスメディアの利用、出前講座及び流通段階等における魚種・産地の明確化などによって「とやま市の旬の魚」等に関する情報発信等を行う。

また、漁業者や漁協は、県内や隣県で生産者と市民等（消費者）とが交流できる地域イベントに参加し、「とやま市の魚」をPRすることで消費の促進や当地区の漁獲物が新鮮で安全であることを広く認識してもらうことに努める。

これらのことから、漁協は、消費者が「とやま市産」を判別できるよ

| | |
|----------------------|--|
| | <p>うにするため、「J F とやま市」のシール等を刺身パック等に貼ることを仲買人や小売店の意見も聞き検討する。</p> <p>また、漁協並びに漁業者は、岐阜市や長野市での地域イベントに参加し、「とやま市の魚」PRを行う。</p> <p>3) 定置網漁業者、小型底曳き漁業者、刺網（たこ）漁業者及び採貝漁業者は、活魚水槽を活用し、漁協とともに魚価に応じた出荷調整を行う。</p> <p>4) 富山市並びに漁協・漁業者は、出前講座を小学生対象に実施する。</p> <p>③ 快適で活力あふれる漁村地域づくり</p> <p>1) 水産物の差別化とPRを図るため、漁協は、プラン第1期に引き続き、漁協の直売所等の設置と併せて、自ら買参権を取得することを検討する。併せて、漁協で持ちうる新たな販路での販売ができるよう魚商等と協議を行う。</p> <p>2) 漁協並びに漁業者は、各地区で水産物を使用した祭りを開催し、地域の賑わいを創出するとともに、地引網体験や漁船での海上遊覧などを実施し、沿岸地域以外からも集客し漁村地域の活性を図る。併せて、イベントの中で、漁業の紹介や安心安全でおいしい「とやま市の魚」をPRする。</p> <p>④ 担い手の育成・確保と経営基盤の強化</p> <p>漁協並びに漁業者は、富山県地域漁業担い手確保・育成協議会に参画して、漁業就業相談会及び就業準備講習会等を実施し、漁業就業者の確保を図るとともに、新規就業者を対象とした経営管理の知識や熟練漁業者の技術等を習得する機会を創出し、漁業者の定着を促進し、中堅漁業者を育成する。</p> |
| <p>漁業コスト削減のための取組</p> | <p>⑤ 漁業コスト削減への取り組み</p> <p>1) 全ての漁業者は、使用漁船の船底・舵・シャフト・プロペラ等の貝落とし、洗浄、研磨、付着生物防止処理を年に最低1回実施することで燃油使用量の削減を図る。</p> <p>また、全ての漁業者は、機器の定期的なメンテナンスを行うことで、長寿命化を図り、機器更新費用を抑制する。</p> <p>2) 漁協及び全ての漁業者は、漁船及び装備機器（漁船新造、魚探、GPS、潮流計等）の高度化を実施し、最新技術の導入により最短距離で漁場までの往復を実現させることなどにより、年間燃油使用量の削減を図る。</p> <p>3) ホタルイカ定置網を“わら網”から“化学繊維網”に変更したため、漁</p> |

| | |
|-----------|---|
| | <p>具の保管施設が不足している。</p> <p>このことから、漁協は、漁具の劣化を抑え、買い替えに係る経費を抑制することを目的に、防災機能を有した漁具倉庫の実施設計を検討する。</p> <p>⑥ 漁港の機能充実</p> <p>富山市は水産基盤整備事業等を活用し、航路・泊地の浚渫、防波堤の嵩上げによる、航路等の必要な水深の確保、また、照明設備の更新や消雪設備の管理による冬季の漁業活動の安全性の確保により、漁業者にとって利便性の高い漁港環境を整えることで、漁船の損傷を防ぐとともに、除雪作業の省力化による漁業者の時間と経費を削減する。</p> |
| 活用する支援措置等 | 水産多面的機能発揮対策事業、水産基盤整備事業、漁港機能増進事業、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業、農山漁村振興交付金、漁業経営セーフティネット構築事業、漁業近代化資金利子補給費補助金、沿岸漁業構造改善事業補助金、栽培漁業振興対策事業補助金、農山漁村地域整備交付金 |

2年目（令和3年度） 漁業所得2. 1%向上

| | |
|--------------|--|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>① 水産資源の管理</p> <p>1) 漁協は、前年度に続き資源管理型漁業及び栽培漁業の推進に取り組む。</p> <p>2) 漁協は、漁業者から意見のあった放流方法について、県水産研究所等からの見解も踏まえ、種苗にとって、これまでより良い条件となりえる放流方法を選定し、種苗放流を実施する。</p> <p>② 良質な水産物の安定供給と販路拡大</p> <p>1) 漁協は、岩瀬地区における産地市場の統合に係る施設整備等に向けて、関係機関との調整を行う。</p> <p>漁協は、冷凍・冷蔵施設等の導入に向けて、小規模な出荷調整を試験的に実施する。</p> <p>漁協は、前年度に引き続き電子入札システムを使用した迅速な取引により、魚の鮮度劣化を最小限に抑制し、付加価値の向上に努める。</p> <p>漁協は、漁業者と協力してプラン第1期に作成したマニュアルを充実させ、魚種や魚体サイズに合った品質向上のための処理方法を検証する。併せて、漁協は、漁業者に対して生き締めを普及活動を実施する。定置網業者及び一本釣り漁業者は、生き締め数量を拡充しながら、前年度と</p> |
|--------------|--|

| | |
|----------------------|--|
| | <p>同様にマニュアルの昇華に協力する。</p> <p>2) 前年度に続き、「とやま市の旬の魚」等に関する情報発信等を行う。 また、漁協は、仲買人や小売店に水産物の販売パッケージに差別化を図るシール等を貼る協力を求める。 漁協並びに漁業者は、岐阜市や長野市等の隣県で行われるイベントに継続して参加し、「とやま市の魚」のPRを行う。</p> <p>3) 漁協並びに漁業者は、前年度に続き活魚水槽の活用による出荷調整等に取り組む。</p> <p>4) 富山市並びに漁協・漁業者は、出前講座を小・中学生を対象に実施する。</p> <p>③ 快適で活力あふれる漁村地域づくり</p> <p>1) 前年度に続き、漁協は、水産物の差別化とPRに取り組む。 漁協は、買参権を取得し、販路を持つべく営業を行うとともに、販売を実施する。 漁協並びに漁業者は、既存施設を活用し、試験的に食堂を開き、利用者の意見を聞きながら、メニュー等を検討する。</p> <p>2) 前年度に続き、漁協並びに漁業者は、漁村地域の活性化及び「とやま市の魚」のPRに取り組む。 漁協並びに漁業者は、遊覧漁船での定置網等の漁業見学や漁業体験を試験的に実施し、参加者の意見を聞く。</p> <p>④ 担い手の育成・確保と経営基盤の強化</p> <p>前年度に続き、漁協並びに漁業者は、漁業就業相談会、就業準備講習会等の漁業就業者の確保・定着を促進する活動に取り組む。</p> |
| <p>漁業コスト削減のための取組</p> | <p>⑤ 漁業コスト縮減への取り組み</p> <p>1) 全ての漁業者は、前年度に続き、船底清掃等による燃油使用量の削減、機器更新費用の抑制に取り組む。</p> <p>2) 漁協及び全ての漁業者は、前年度に続き、操業効率化による燃油使用量の削減に取り組む。</p> <p>3) 漁協は、前年度に続き、ホタルイカ定置網用漁具倉庫の実施設計を検討する。</p> <p>⑥ 漁港の機能充実</p> <p>富山市は、前年度に続き、漁港施設の維持管理及び近代化に努める。</p> |

| | |
|-----------|--|
| | |
| 活用する支援措置等 | 水産多面的機能発揮対策事業（国）、水産基盤整備事業（国、県）、漁港機能増進事業（国）、漁業経営セーフティネット構築事業（国）、漁業近代化資金利子補給費補助金（国、県、市）、沿岸漁業構造改善事業補助金（市）、栽培漁業振興対策事業補助金（市）、農山漁村地域整備交付金（国） |

3年目（令和4年度） 漁業所得2. 1%向上

| | |
|--------------|---|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>① 水産資源の管理</p> <p>1) 漁協は、前年度に続き、資源管理型漁業及び栽培漁業の推進に取り組む。</p> <p>2) 漁協並びに漁業者は、前年度に選定した放流方法で種苗放流を実施する。</p> <p>② 良質な水産物の安定供給と販路拡大</p> <p>1) 漁協は、産地市場の統合に係る施設整備等について、関係機関との調整を図り、高度な品質・衛生管理を実現する荷さばき所に一次加工と冷凍保管の機能を兼ね備え、防災・観光拠点ともなりえる施設の整備に向けて、実施設計を行う。</p> <p>漁協は、前年度に続き、冷凍・冷蔵施設等の導入に向けて、小規模な出荷調整を試験的に実施する。</p> <p>漁協は、前年度に引き続き電子入札システムを活用し、魚の鮮度劣化を最小限とし、付加価値の向上に努める。</p> <p>漁協は、漁業者と協力してプラン第1期に作成したマニュアルを充実させ、年度内に魚種や魚体サイズに合った品質向上のための処理方法を確立する。併せて、漁業者に対して生き締め数の普及活動を継続する。</p> <p>定置網業者及び一本釣り漁業者は、生き締め数を拡充しながら、前年度と同様にマニュアルの昇華に協力する。</p> <p>2) 漁協並びに漁業者は、前年度に引き続き、「とやま市の旬の魚」等に関する情報発信等を行う。</p> <p>また、漁協は、仲買人や小売店に水産物の販売パッケージに差別化を図るシール等を貼る協力を求める。</p> <p>漁協並びに漁業者は、岐阜市や長野市等の隣県で行われるイベントに継続して参加し、「とやま市の魚」のPRを行う。</p> <p>3) 漁協並びに漁業者は、前年度に続き、活魚水槽の活用による出荷調整等に取り組む。活魚水槽が岩瀬市場の工事の際に支障となる場合は、移設</p> |
|--------------|---|

| | |
|----------------------|---|
| | <p>場所を検討する。</p> <p>4) 富山市並びに漁協・漁業者は、前年度に続き出前講座を実施する。</p> <p>③ 快適で活力あふれる漁村地域づくり</p> <p>1) 前年度に続き、漁協は水産物の区別化とPRに取り組む。 また、漁協は前年度に続き、販路拡大のための営業と販売を実施する。漁協並びに漁業者は、前年度に続き、イベント時に食堂を開き、利用者の意見を聞きながらメニュー等を検討する。</p> <p>2) 前年度に続き、漁協並びに漁業者は、漁村地域の活性化及び「とやま市の魚」のPRに取り組む。 漁協並びに漁業者は、遊覧漁船での定置網等の漁業見学や漁業体験を試験的に実施し参加者の意見を聞く。</p> <p>④ 担い手の育成・確保と経営基盤の強化</p> <p>前年度に続き、漁協並びに漁業者は、漁業就業相談会、就業準備講習会等の漁業就業者の確保・定着を促進する活動に取り組む。</p> |
| <p>漁業コスト削減のための取組</p> | <p>⑤ 漁業コスト縮減への取り組み</p> <p>1) 全ての漁業者は、前年度に続き、船底清掃等による燃油使用量の削減、機器更新費用の抑制に取り組む。</p> <p>2) 漁協及び全ての漁業者は、前年度に続き、操業効率化による燃油使用量の削減に取り組む。</p> <p>3) 漁協は、前年度に続き、ホタルイカ定置網用漁具倉庫の実施設計を検討する。</p> <p>⑥ 漁港の機能充実</p> <p>富山市は、前年度に続き漁港施設の維持管理及び近代化に努める。</p> |
| <p>活用する支援措置等</p> | <p>浜の活力再生プラン推進等支援事業（国）、水産業強化支援事業（国）、水産多面的機能発揮対策事業（国）、水産基盤整備事業（国、県）、漁業経営セーフティネット構築事業（国）、漁業近代化資金利子補給費補助金（国、県、市）、沿岸漁業構造改善事業補助金（市）、栽培漁業振興対策事業補助金（市）、農山漁村地域整備交付金（国）</p> |

4年目（令和5年度） 漁業所得2. 1%向上

| | |
|--------------|--|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>① 水産資源の管理</p> <p>1) 漁協は、前年度に続き、資源管理型漁業及び栽培漁業の推進に取り組む。</p> <p>2) 漁協並びに漁業者は、前年度に選定した放流方法で種苗放流を実施する。</p> <p>② 良質な水産物の安定供給と販路拡大</p> <p>1) 漁協は、産地市場の統合に係る施設整備等について、建設工事を行い完成させる。</p> <p>漁協は、冷凍・冷蔵施設等を新たな岩瀬市場に導入し、出荷調整による魚価の向上を目指す。</p> <p>漁協は、前年度に引き続き電子入札システムを使用し、魚の鮮度劣化を最小限とし、付加価値の向上に努める。併せて、漁協は、仲買人へ電子入札システムのさらなる普及のための説明等を行う。</p> <p>漁協は、完成した品質向上マニュアルを漁業者に広く周知するため、研修や食味試験を通じてマニュアル実施を励行する。併せて、市場での水産物の品質向上について既存参加のイベント等で周知し、「とやまの魚」の良さについて県内外に広くPRする。定置網業者及び一本釣り漁業者は、マニュアルを基に生き締め数量を拡充し魚価の向上に努める。</p> <p>2) 漁協並びに漁業者は、前年度に引き続き、「とやま市の旬の魚」等に関する情報発信等を行う。</p> <p>また、漁協は、仲買人や小売店に水産物の販売パッケージに差別化するためのシール等を貼る。</p> <p>漁協並びに漁業者は、岐阜市や長野市等の隣県で行われるイベントに継続して参加し、「とやま市の魚」のPRを行う。</p> <p>3) 漁協並びに漁業者は、前年度に続き、活魚水槽の活用による出荷調整等に取り組む。活魚水槽が岩瀬市場の工事の際に支障となる場合は、移設する。</p> <p>4) 富山市並びに漁協・漁業者は、前年度に続き出前講座を実施する。</p> <p>③ 快適で活力あふれる漁村地域づくり</p> <p>1) 前年度に続き、漁協は水産物の差別化とPR、漁協独自の販売に取り組む。</p> <p>漁協並びに漁業者は、前年度に続き、一定期間食堂を開き、利用者の意見を聞きながら、利用の傾向等についてデータを収集する。</p> <p>2) 前年度に続き漁協並びに漁業者は、漁村地域の活性化及び「とやまの魚」のPRに取り組む。漁協並びに漁業者は、遊覧漁船での定置網などの漁</p> |
|--------------|--|

| | |
|---------------|--|
| | <p>業見学や漁業体験に取り組む。</p> <p>④ 担い手の育成・確保と経営基盤の強化</p> <p>前年度に続き、漁港並びに漁業者は、漁業就業相談会、就業準備講習会等の漁業就業者の確保・定着を促進する活動に取り組む。</p> |
| 漁業コスト削減のための取組 | <p>⑤ 漁業コスト縮減への取り組み</p> <p>1) 全ての漁業者は、前年度に続き、船底清掃等による燃油使用量の削減、機器更新費用の抑制に取り組む。</p> <p>2) 漁協及び全ての漁業者は、前年度に続き、操業効率化による燃油使用量の削減に取り組む。</p> <p>3) 漁協は、前年度に続き、ホタルイカ定置網用漁具倉庫の実施設計を検討する。</p> <p>⑥ 漁港の機能充実</p> <p>富山市は、前年度に続き、漁港施設の維持管理及び近代化に努める。</p> |
| 活用する支援措置等 | <p>浜の活力再生プラン推進等支援事業（国）、水産業強化支援事業（国）、水産多面的機能発揮対策事業（国）、水産基盤整備事業（国、県）、農山漁村振興交付金（国）、漁業経営セーフティネット構築事業（国）、漁業近代化資金利子補給費補助金（国、県、市）、沿岸漁業構造改善事業補助金（市）、栽培漁業振興対策事業補助金（市）、農山漁村地域整備交付金（国）</p> |

5年目（令和6年度） 漁業所得13.9%向上

| | |
|--------------|--|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>① 水産資源の管理</p> <p>1) 漁協は、前年度に続き、資源管理型漁業及び栽培漁業の推進に取り組む。</p> <p>漁協は、キジハタの栽培漁業の事業化が実現した暁には、キジハタ資源の増大を目的とした魚礁の整備を検討する。</p> <p>2) 漁業者は、放流方法の改良による、放流効果の調査などに協力する。</p> <p>② 良質な水産物の安定供給と販路拡大</p> <p>1) 漁協は、前年度に完成した市場施設を活用し、四方市場と岩瀬市場に分散した漁獲物を集約することで、数が揃いにくい高規格魚を安定供給できる体制を整える。</p> |
|--------------|--|

漁協は、前年度に続き冷凍・冷蔵施設を使用し、魚価単価の向上を目指す。

漁協は、前年度に引き続き電子入札システムを使用し、魚の鮮度劣化を最小限とし、付加価値の向上に努める。

漁協は、前年度と同様に品質向上マニュアルに沿った漁獲物の管理を励行するとともに、イベント等で、「とやま市の魚」の良さについて県内外に広くPRする。定置網業者及び一本釣り漁業者は互いにマニュアルを実践するために連携・協力し、活き締め数量を拡充し魚価の向上に努める。

- 2) 漁協並びに漁業者は、前年度に引き続き、「とやま市の旬の魚」等に関する情報発信等を行う。

高度衛生管理型施設を備えた産地市場に整備されたことを踏まえ、これまで以上に安心・安全でおいしい「とやま市の魚」をPRする。

漁協は、水産物全般の販売パッケージに区分化するためのシール等を貼る。

- 3) 漁協並びに漁業者は、岐阜市や長野市等の隣県で行われるイベントに継続して参加し、「とやま市の魚」のPRを行う。漁協並びに漁業者は、前年度に続き、活魚水槽の活用による出荷調整等に取り組む。

漁協は、ヒラメやクロダイ等の活魚販売水槽を設置し、これまで以上に消費者ニーズに応えられる体制（量）を確保する。

- 4) 富山市並びに漁協・漁業者は、前年度に続き出前講座を実施する。

③ 快適で活力あふれる漁村地域づくり

- 1) 前年度に続き漁協は、水産物の差別化とPR、漁協独自の販売に取り組む。

漁協並びに漁業者は、前年以上に食堂の開店日を増やし、当漁協で水揚げされた水産物を利用した食事を提供する。併せて、漁協は、直売所設置の検討を行う。

- 2) 前年度に続き漁協並びに漁業者は、漁村地域の活性化及び「とやま市の魚」のPRに取り組む。漁協並びに漁業者は、遊覧漁船での定置網などの漁業見学や漁業体験に取り組む。

④ 担い手の育成・確保と経営基盤の強化

前年度に続き、漁協並びに漁業者は、漁業就業相談会、就業準備講習会等の漁業就業者の確保・定着を促進する活動に取り組む。

| | |
|---------------|--|
| | |
| 漁業コスト削減のための取組 | <p>⑤ 漁業コスト縮減への取り組み</p> <p>1) 全ての漁業者は、前年度に続き、船底清掃等による燃油使用量の削減、機器更新費用の抑制に取り組む。</p> <p>2) 漁協及び全ての漁業者は、前年度に続き、操業効率化による燃油使用量の削減に取り組む。</p> <p>3) 漁協は、防災機能を有した漁具倉庫の整備に向けて実施設計を行う。</p> <p>⑥ 漁港の機能充実</p> <p>富山市は、前年度に続き、漁港施設の維持管理及び近代化に努める。</p> |
| 活用する支援措置等 | 浜の活力再生プラン推進等支援事業（国）、水産業強化支援事業（国）、水産多面的機能発揮対策事業（国）、水産基盤整備事業（国、県）、農山漁村振興交付金（国）、漁業経営セーフティネット構築事業（国）、漁業近代化資金利子補給費補助金（国、県、市）、沿岸漁業構造改善事業補助金（市）、栽培漁業振興対策事業補助金（市）、農山漁村地域整備交付金（国） |

(5) 関係機関との連携

県及び市並びに漁協が連携しながら各種支援制度を活用し、随時、県漁連やその他関係機関のアドバイスを受けながら、プランを実施する。

4 目標

(1) 所得目標

| | | |
|--------------|-----|--------------------------------|
| 漁業所得の向上10%以上 | 基準年 | 平成26-30年度平均： 漁業者1人あたり漁業所得 円 |
| | 目標年 | 令和6年度： 漁業者1人あたり漁業所得 円 |

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

詳細は別添算出根拠資料（所得目標算出表）を参照。

(3) 所得目標以外の成果目標

| | | |
|---|-----|-----------|
| 全出荷量にしめる生き締め 水産物の出荷率（マアジ、サ バ、ブリ、フクラギ） | 基準年 | 令和元年度： 0% |
| | 目標年 | 令和6年度： 2% |

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

| |
|------------------------------|
| 詳細は別添算出根拠資料（所得目標算出表）出荷比率を参照。 |
|------------------------------|

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

| 事業名 | 事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性 |
|-------------------------|----------------------|
| 浜の活力再生プラン推進等支援事業（国） | 新たな技術の吸収 |
| 水産業強化支援事業（国） | 共同利用施設の整備 |
| 水産バリューチェーン事業（国） | 産地市場の統合・機能強化 |
| 水産多面的機能発揮対策事業（国） | 浜の清掃・モニタリング |
| 水産基盤整備事業（国、県） | 漁港施設の整備・強化・維持 |
| 漁港機能増進事業（国） | 就労環境の改善・安全対策向上 |
| 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） | 新船造船 |
| 農山漁村振興交付金（国） | 農泊推進・施設整備 |
| 漁業経営セーフティネット構築事業（国） | 燃油価格等の上昇による影響の緩和措置 |
| 漁業近代化資金利子補給費補助金（国、県、市） | 漁船、漁具等の近代化 |
| 沿岸漁業構造改善事業補助金（市） | 漁船装備の近代化 |
| 栽培漁業振興対策事業補助金（市） | 年間漁獲量の増大 |
| 豊かな海を育む対策事業【魚礁設置・調査】（市） | 新たな技術の吸収 |
| 農山漁村地域整備交付金（国） | 漁港海岸保全施設の整備 |
| 災害復旧事業（国） | 漁港施設・共同利用施設等の復旧 |